



市民自治をめざす 2008.10.15 号外 31号 1000人の会 NEWS

発行 市民自治をめざす1000人の会 住所 〒271-0092 千葉県松戸市松戸1879-24 ほくとビル5F
Tel&Fax 047-360-6064 E-mail shinji-1000party@msj.biglobe.ne.jp
郵便振替口座 00130-0-76000 http://www5b.biglobe.ne.jp/~matsudo

市長の公約違反、100億円規模の損失 銚子市立総合病院休止問題が問いかける課題

銚子市立総合病院が医師不足等により9月いっばいで休止に追い込まれ、地域医療の崩壊という最悪のシナリオが大きな話題となっています。こうした中で、銚子市民による「何とかしよう銚子市政市民の会」（以下「市民の会」）が結成され、岡野市長のリコール運動が始まっています。

■地域医療を崩壊させた市長の公約違反

「市民の会」では、リコールの理由を次のように述べています。

「市立病院の休止や市立高校看護、専攻科の入学停止に至る、岡野市長の市民無視の市政に危機感を感じています。壊された公的医療の早急な再生と住民自治を取り戻すため、国民固有の権利を保障する憲法・地方自治法に基づき岡野市長の解職請求をいたします。

(1) 市長の『市立病院を充実させ、市民の健康を守ります。必ず残します。との市民への公約を2年足らずのうちに自ら破り、しかも、5万名にも及ぶ市立病院存続の市民要望や医療スタッフはじめ関係者の切実な願いに何一つ応えることなく、短期間に市立病院をつぶしてしまった。市長の責任は免れない。
(2) 胴体着陸に等しい最悪の病院休止により地域医療や公的医療が崩壊し、医療の空白が生じている。
(3) 財政的損失や市民が受ける経済的損失も膨大である。病院休止、閉鎖により施設費、退職金等の債務が確定し総額60億円にもなる。また、職員の大量失業による影響や各種委託業務、市内薬局の売り上げ等、併せて40億円にもなる市民の経済的損失が発生する。市長の失政により、100億円規模にもなる経済的損失を負う」と。

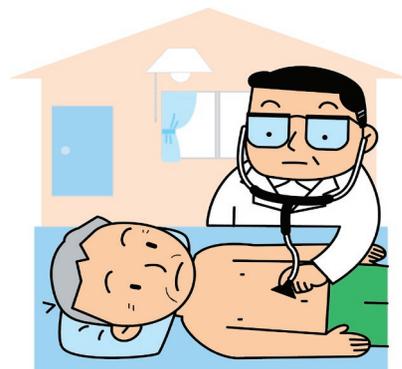
▼政府も公立病院の切捨てめざす

小泉政権による「医療の構造改革」の名のもとに、05年に医療費の削減に向けた「医療制度改革大綱」

が決定され、06年4月から実施された診療報酬の3.16%の引き下げで、病院経営は急速に悪化し、医療崩壊に拍車をかけました。全国の多くの公立病院が赤字経営に転落し、存亡の危機に立たされています。

松戸の市立病院も例外ではありません。2つの市立病院の医師・看護師不足は続き、この3年間の収支状況では、05年度で6億228万円、06年度で3億4,349万円、07年度で2億4,800万円の赤字となっています。

このような中で、総務省は昨年11月、「公立病院改革ガイドライン」を提起し、各自治体に『公立病院の改革プラン』を提示し、経営の効率化、再編ネットワーク化、経営形態のあり方の策定を求めました。赤字経営の公立病院は、休止や民間への譲渡を迫りだしています。



■川井市長も選挙公約の立替を破棄に、市民が行動するとき！

松戸市立病院の建替え問題で、松戸市議会と川井市長の全面的な対立も、こうした背景があります。川井市長が9月市議会開催時に立替を断念する提案を突然出してきたからです。銚子市立総合病院の休止問題は、明日の松戸市立病院の姿かも知れません。私たちは、銚子市立総合病院が再開されるよう、このリコール運動が成功することを支援したいと思います。

さらに、市民・利用者の立場から、行政と議会に地域医療のあり方と市立病院建替え問題についての提案をしていくときです。今こそ、市民の行動が問われています。感心のある方、一報ください。

川井市長は『関さんの森道路案』 に対して二枚舌を使うな！

全国から注目、「関さんの森道路案」賛同署名・支援の輪広まる！

9月1日、地権者の関美智子・啓子さん姉妹、関さんの森を育む会、関さんの森エコミュージアムから松戸市に提出された『関さんの森道路案』が、松戸市政にとって大きな課題となっています。川井市長が、45年前の都市計画道路案にしがみついて土地収用法攻撃に踏み切るのか、『関さんの森道路案』を踏まえて、地権者や関係団体と話し合い解決をめざすのか、全国から注目されています。

●関さんの森ツアーを計画しませんか

「関さんの森エコミュージアム」では、現在、土曜・日曜・祝日の午前10時から午後3時まで、屋敷内も含めてスタッフが案内する体制がとられています。どうか、家族連れでお出かけください。遠くに行かなくても、こんな素晴らしい場所があることを体感してください。そして、多くのみどりが残る道路が実現できるよう『関さんの森道路案』の賛同署名に協力ください！

●「関さんの森を守る松戸市民応援団」がスタート！

このような訴えを受けて9月18日、松戸市の土地収用法に基づく立ち入り調査に抗議し、松戸市は地権者や関さんの森関係者と話し合いで解決すべきだと市民、市民団体、政治団体が相談会を開催し、『関さんの森道路案』に賛同する署名活動に全力で取り組むこと。そのために「関さんの森を守る松戸市民応援団」をスタートさせています。

●市長と担当課職員の説明がまったく違うのは？

10月5日、TBS（噂の東京マガジン）をご覧になられた方が多くいますが、そのTVインタビューに出た川井市長は、『関さんの森道路案』

に対し検討に値するとし、強制収用などしたくないが、という発言をされています。ところが、同日に開催されていた松戸まつりの市ブースでは、担当職員が都市計画道路案を前提に「直線でもうすぐ開通する」という説明を市民にしているのです。この2つの発言は、川井市長が強制収用などしたくない、と言いながら、一方で担当課に強制収用法に基づく以外になしと判断されているのか。さらに現在、全市民向けに都市計画道路案のリーフレットが配布されているのです。9月末までに、『関さんの森道路案』に対する松戸市の態度を明らかにする、との約束も守られていません。

●話し合い解決を求めて、『関さんの森道路案』賛同署名を拡大しましょう！

直線道路で通過した場合の用地買収費用はいくらになるのか、5～6億円にもなると言われています。地権者の関さん姉妹は、話し合い解決ができれば用地費はいらぬ、と発言されています。

今後の松戸市政が、市民の提案を認めず、強権的な市政に固執するのか、話し合い解決で市民参加の市政運営に転換するのか、大きな転換点です。

